

特定外来生物ナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ船上調査

2020年度はナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）の分布状況を船上より4回調査しました。場所は主に手賀沼上沼で、1回目は6月30日ハーベスター試験駆除視察時に、2回目は8月5日コンバー試験駆除時に合わせて調査を行いました。

また、2回目以降は、試験駆除後の再生状況も確認しました。

【3回目】 2020年10月20日13:30～15:00

参加：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏、美手連6名

船（みずすまし号）の運航：古川船長（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

【4回目】 2020年12月3日（木）9:40～11:35

参加：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹氏、千葉県立中央博物館 林紀男氏、美手連5名

船（みずすまし号）の運航：古川船長、杉山補助員（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

■試験駆除後の再生状況の確認調査



7月3日にハーベスター試験駆除が完了。委託業者によると、駆除後のモニタリングでは1週間後にすでに、ナガエ・オオバナの群落や断片が漂着していたとのこと。10月20日に美手連が調査をしたときには、両駆除エリアとも漂着したものが定着し、生長し続けていた。結局そのまま放置し、半年後の1月の本格駆除実施時に駆除対象エリアに含め、再度駆除をしていた。

「試験駆除」であれば、駆除後の再繁茂状況を確認し、定期的な巡回監視・駆除を「試験的」に実施し、駆除量等のデータを収集し、本格駆除に生かしてほしかった。本格駆除の処分量にも影響を及ぼしたはずである。今後、駆除後のアフターケアや漂着防止対策はどうなるのだろうか。早急に体制の構築が望まれる。

■ナガエ・オオバナ分布状況調査

今年度に入り、船上から調査する際、遠目に黄色っぽく見える群落が目立ってきた。今までには見られなかった現象である。

最初の調査6月30日の際、群落の先端部のナガエの葉が黄変しているのを確認した。8月5日には、黄緑色のナガエと濃い緑色のオオバナの群落がブチ模様に拮抗している様子が見られた。ナガエの黄変については、これまで手賀沼や印旛沼流域では初夏から夏にかけて確認され、秋になると自然に解消している。

ところが、10月20日には、黄緑色はナガエの群落とばかりに思っていたら、オオバナの葉が黄変しているのを確認し、認識を新たにした。ほとんど岸際の黄緑色はオオバナの群落に代わっていて、12月3日も依然として顕著だった。



船戸の森地先

2020年6月30日



我孫子新田地先

2020年8月5日



大堀川河口



(ナガエの黄変)

大堀川河口



花火台(一面オオバナのお花畑)



船戸の森地先

2020年10月20日



(オオバナの黄変)

船戸の森地先



花火台(赤茶色に枯れたオオバナ)

2020年12月3日



北千葉導水第二機場前



手賀沼公園東側



北千葉導水第二機場前

- ・ナガエやオオバナの葉が黄変していたのは、群落の縁の方で、より水に洗われるところだった。中井さんによるとオオバナの黄変は琵琶湖では見たことがないとのこと。原因は不明。化学物質の影響か。
- ・10月20日には、ナガエは場所によっては、葉がほとんどなくなっているところがあった。ツトガの幼虫の仕業かもしれないと、中井さんがおっしゃっていた。琵琶湖でも2020年初めて、この幼虫にナガエの葉が食べられたという。(写真：最下段中央)